

2024年度 施策マネジメントシート【2023年度実績評価】

作成: 2024年 5月 30日

施策番号 3-1-2	施策名 公立芽室病院の総合的な医療体制の維持・発展	基本目標 誰もが健康で自分らしく笑顔で暮らせるまちづくり	政策名 いつまでも健康で安心して暮らせる保健医療環境づくり
			課長名 石田 哲
	主管課 公立芽室病院	内線 62-2811(電話)	施策関係課

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果		
公立芽室病院が地域包括ケアシステムの医療拠点として、また、「地域住民にとって不可欠な病院」として診療機能の充実を図り、町民の理解を得ながら病院づくりを進めます。	公立芽室病院	持続可能な診療機能体制の構築と経営基盤の強化				質の高い医療の提供			
成果指標	説明	単位	策定期(基準値)	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績	2026年度実績	2026年度目標	
① 患者数(外来)	病院決算状況	人/年	55,001 (R3)	62,238				75,000	
② 病床稼働率(入院)	病院決算状況	%	64.8 (R3)	76.9				85.0	
③									
成果指標 設定の考え方	①患者数(外来): “かかりつけ医”の病院機能を伸長し、内科・総合診療科を中心に患者数増加を見込み設定 ②病床稼働率(入院): 他医療機関・関係施設の連携・協力等を踏まえて設定(稼働病床107床で積算)								

2. 施策の事業費

	策定期決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
施策事業費 (千円)	1,819,138	1,868,090			

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2023年度の成果評価(基準年との比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	外来では発熱患者へのPCR検査を診療日に途切れることなく実施し、入院ではベッドコントロールや、断らない救急からの入院受入等により稼働率が上昇している。
②第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しい <input checked="" type="checkbox"/> いが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	外来患者数は、平成28年度並みの患者数が目標であるが、当時より診療科目が減っており、現状のままでは達成が難しい。 入院稼働率では、コロナ患者の病床確保終了により、今後、更なる上昇が期待できることから達成できると判断する。 今後も住民ニーズや、採算性・必要性等を総合的に勘案し診療科の見直しが必要である。
(2) 施策の成果評価に対する2023年度事務事業総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	病院職員任免事務 病院経営企画事務 病院広報広聴事務	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	病院職員任免事務→職員の確保が図れた。 病院経営企画事務→自律経営プロジェクト導入により職員の経営参画意識の向上が図れた。また、本取組みを全国自治体病院学会で発表、新聞等に内容掲載を受けて注目を集めることができた。 病院広報広聴事務→町民及び関係機関向けの講座、当院ホームページ、Facebook等のSNSや、病院広報誌発行による積極的に情報発信を行い、当院の活動等を地域住民に知りたいことができた。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定期との比較)

担当課 評価	2023年から2024年にかけて、医師の変更がなかったことから、診療機能充実や、訪問診療・かかりつけ医としての機能強化が更に期待できる。		A	B	C	D	E
		進捗結果		○			

A:実現した
B:(後期実施計画策定期と比較して)大きく前進した
D:(後期実施計画策定期と比較して)変わらない又は維持した

C:(後期実施計画策定期と比較して)前進した
E:(後期実施計画策定期と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く 状況と今後の 予測	現在の外来診療は、総合診療科、小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科(出張医)、循環器内科(出張医)を実施し、救急指定病院として24時間体制で地域住民が安心して暮らすための医療体制を構築している。また、在宅患者への対応は当院の役割の1つとして、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ等、在宅医療の機能充実を図っている。今後は、医療機関、関係施設等との連携・協力体制の強化が進むと想定し、当院の役割・機能等について、地域住民や利用者に十分理解してもらう取組と活動の推進が必要である。
この施策に対し て住民・審議 会・議会からど のような意見や 要望が寄せら れ、どのように 改善したか。	第1回目として2019年度に町民に病院を身近に感じてもらうことをコンセプトに病院まつりを開催して以降、コロナのため開催を断念していたが、2023年度に第2回目として病院まつりを開催した。病院まつりや地域医療フォーラムの集客数や、出前講座の件数増加を見ても、当院への期待度は大きいと判断する。議会厚生文教常任委員会や病院運営委員会においては、現在の取組みを継続するよう意見をいただいている。

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取り組むべき課題)

○令和5年3月策定の「公立芽室病院経営強化プラン」の点検・評価・公表を実施し、本プランに基づいて病院運営を取り進めていく。
○「かかりつけ病院」としての更なる機能強化を図り、訪問診療や訪問看護・訪問リハビリ等、更なる在宅療養支援の強化を図る。
○自律経営プロジェクトの推進と各部門の組織強化や、ワーキンググループ(WG)を継続し、職員のスキルアップや経営意識の醸成、他部署の職員間の交流、院内にある課題改善を取り進める。
○患者が医療を得られる機会を増やし、医療の質の向上に結びつけるために、外来とオンライン診療の両立を図る。
○需要が増えることが見込まれる回復期病床の機能を有した地域包括ケア病床の拡大を目指す。
○予防医療を提供・推進のため、すこやか健診等の公衆衛生活動を積極的に展開するとともに、健診後の指導から当院での治療につなげていく。

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標等から、前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果		○			
今後の取 組 に対する 意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A:実現した B:(後期実施計画策定期と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定期と比較して)前進した D:(後期実施計画策定期と比較して)変わらない又は維持した E:(後期実施計画策定期と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	庁内評価同様に前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果		○			
今後の取 組 に対する 意見	・先生の欠員がないようにしてほしい。 ・マイナ保険証の拡大が進んでいるが、高齢者やデジタルについていけない人たちの対応も考えてほしい。 ・在宅医療、在宅看護の体制を継続 ・患者の人権を考慮した対応の継続 ・職員への町民のいい声を伝えられる工夫をしてほしい。	A:実現した B:(後期実施計画策定期と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定期と比較して)前進した D:(後期実施計画策定期と比較して)変わらない又は維持した E:(後期実施計画策定期と比較して)後退した					

D:(後期実施計画策定期と比較して)変わらない又は維持した

E:(後期実施計画策定期と比較して)後退した